

出会い ふれあい 助け合い



あべの

NO 91



CHRISTMAS

きっと、ええことがありますよ

サロン・あべの十二月の出会い

平成五年十二月四日(土)、

育徳園の三階にある幸分ホールにおいて、サロン・あべの十二月の出会い「サロンのクリスマス」を開催した。

今回のクリスマスをひと言で表現すれば、「にぎやか」であった。

オープニングは、旭さんと、吉岡さんのお二人の進行によるゲームである。

まず参加者を六つのグループに分け、「瞬間認識テスト」である。小さな台の上に置かれた色々な品物を、布で覆い隠しておき、それを、たったの五秒間だけ見て、何が乗っていたのか、色や数も含めて当てるのである。グループごとに相談して答え、合っていた数を競ったが、これが以外に難しく、視力だけでなく、チームワークが要求されたようである。

それに続いて、「ある・ないクイズ」。答えを聞いてしまえば、なるほどと思うものばかりだが、これがまた難しい。分からない人には、本当にさっぱり分からないものである。逆に、

分かる人には簡単らしく、何度も答えてしまう人が数人いた。

今年もモルモン教の方が、お手伝いに来てくださった。

日本人が二人とアメリカ人が四人、計六人による合唱である。

二人がサンタのふん装をして、また、もう一人の方は、ピアノを弾きながら、「ジングルベル」など、おなじみのクリスマスソング数曲を、合唱してくださった。途中、松本さんと倭さんのお二人による、ハーモニカ演奏も入るなど、会場の雰囲気をおおいに盛り上げていただいた。そして、石川さんと小椋さん(共にギター)、森さん(シンセサイザー)の、三人の登場で

ある。

「太陽がくれた季節」を皮切りに、ラストの「襟裳岬」まで、全九曲を披露していただいた。イントロクイズや、ちょっとし

たおしゃべりなども織り交ぜながら、また、八曲目の「飛んでイスタンブール」では、吉岡さんが、ボーカルで飛び入りする

演出していただいた。フィナーレは、例年どおり、旭さんと吉岡さんによる、手話コーラス。「赤鼻のトナカイ」の曲に乗せ、サンタクロース

(今年は、山村さん) が現われ、参加者全員にプレゼントを配り、サロンのクリスマスは、幕を閉じた。参加者は、三十八名であった。

## 今年のクリスマス

### なにかええこと、ありましたか？

十二月の第一土曜はサロン・あべののクリスマス。これが私の大切な年中行事のひとつになってもう何年になるかしら？毎年、このシーズンになると、「ああ、一年が過ぎるのはなんて早いのかしら」とためいきをつき、当日参加すると「また、今年もサロンを通じてたくさんの出会いがあったなあ」と満足する。

サロンのクリスマスには音楽がお似合い。今年も宣教師の方々が賛美歌を、石川さんはじめ三人が色々な歌を聞かせてくださいましたが、サロンらしいのは手話コーラス。特に「赤鼻のトナカイ」。この曲を聞くと盲導犬ケリヤをトナカイに、サンタクロースに扮して

ブレゼントを渡していらした大島さんを思い出す。そして、渡邊智佳代さん、斎藤孝文さんにもう会えないと思うとても残念です。

すごく たのしかったです。

皆とあえてうれしかったです。

来年もまた、たのしみになっています。

新しい人達と出会えてよかったです。

サロンに参加した事で色々な勉強になった。

た。書くのが苦手だけど・・・

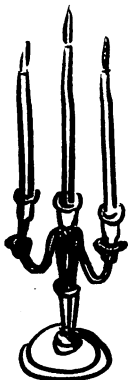
いつも、ありがとう。

サロンのクリスマスは、今年で七回出席させていただきました。

初めのころは、研修室でも入れる人数だったのですが、気が付くと今のような人数にふくらんでいました。

うれしいことです。

今年は、サロンにも悲しいできごとがつきつき起こり、それをふつとばそうといつもより趣向をこらしたいと思っていました。思いどおりの色とりどりの出し物で、満足しています。



幼いころ、日曜学校(教会)へ行った事等思い出して、また若い方のニューミージック等、楽しく三時間があつというまに過ぎ去りました。ありがとうございます。

本日は楽しく豊かな時間を過ごせまして、感謝しています。

皆様方の増々確かな時を過ごして成長されることを望みつつ、私も新たな思いで励めるので、すばらしい時となりました。

スタッフの方、ご苦勞様でした。

楽しかった。

今日はお若い方といっしょに楽しいひとときを過ごさせていただきました。

いろいろ趣向をこらし、景品まで頂戴し厚く御礼を申し上げます。

私はクリスチャンでもなんでもありませんが、懐かしい曲(若い頃に覚えましたが)を聴かせていただき、気分的にも若返

りました。

お世話くださった方々に心からお礼を申し上げます。

ばたばたと忙しくうごき回った一日でした。すこくたのしく、時間がたつのをわすれてしまいました。

来年もたのしみです。

倭さんと松本さんのハーモニカ合奏は、プログラムにはなかったものと、後で聞きました。しかも初対面だったとか。即興であそこまで聞かせて頂けるとは、標題通りの、ほんとうに「ええことあった」サロンならではクリスマスでした。

私達のテーブルには、アメリカの女性が座ってくれ、私は大変うれしく、時間のたつのが早く感じました。

クイズでは、私の頭がかたいのかして、ほとんどわからずじまいでした。

また、ギターの演奏は皆の知っている歌ばかりでなつかしかったです。

最後にサロンの準備と片付けをいろんな方が手伝ってくれて助かりました。来年もよろしくお願いします。

心かよい、が、涙をさそう

冷たいこの世に暖かさあり!

今日 感動しました。

二年ぶりに参加、とても楽しかった。

子供にかえて、たのしい時間をすごしました。

今日は久しぶりに演奏させていただいてありがとうございます。

これからも、いっぱい楽しいことをやって下さい。

これからも、たがいにがんばっていきましよう。

楽しかったです。



ええことあったサロンのクリスマス

ゲームありクイズあり、そしてなんともないホンワカムードがある。アメリカからこられてる宣教師さんたちとのさざやかだけど気軽さいっぱい国際交流。それらはこれまでも、きつとまたこれからサロン・あべののクリスマスにかかすことのできないものだ。  
加えて、今年のサロンのクリスマス会

場いっぱい流れた「なつかしのホークソング」の歌声は、きつと多くの人たちの胸にいろんな思い出をよみがえらせてくれたことだろう。私もひとむかし、ふたむかし前の若い日々に口ずさんだいくつかのメロディーが、時間を超えてそのころに連れ戻してくれたようで軽やかなひとときを過ごせた。

初冬のやわらかな陽ざしも大きな窓からそつとのぞきこんで、童話に出てくる旅人のコートを手がけることを北風ときそつと太陽のように、あつまった人たちがみんなの顔を明るく照らして、あたたかさをそつとプレゼントしてくれているようだった。

おだやかな気持ちにひたり、時の流れがともゆるやかに感じられた土曜の午後のクリスマスつどい。サロンならではの、こんな居心地のいいクリスマス会をいつまでも大切にしたい、とあらためて思う。

今年も元気はつらつとしたB・Bガールズ(旭さんと吉岡さん)が司会を担当して下さり、色々なゲームを楽しませていただきました。

人の記憶の確かさと不確かさを目の当たりにしたのは、最初のゲーム(隠されていた品物を当てる)とイントロゲームでの曲名当て。どちらも人の記憶力という点では違いないでしょうが、柔らかな頭というのは「若さ」なのかなあと。これは、「あるないクイズ」でも感じました。

今年アメリカから六人の留学生が参加その中のサンタさんが、クリスマスソングにあわせての踊りが楽しかった。クリスマス気分を満喫。

お世話下さった皆様、ありがとうございました。

たいへん、楽しかったです。

来年は、もっと練習してきます。

どうも、おじゃましました。

初めてクリスマスパーティーに参加したんですけれど、歌やクイズなどとても楽しかったです。

また、来年も参加しようと思っています。



海外から

親愛なる慶子さんへ

あなたとあなたのグループへ、幸せなクリスマスと新しい年の繁栄を祈ります。

どうか、文通に興味を持っているたくさんのメンバーがいることをあなたのグループに知らせて下さい。

私たちは10代からお年寄りまで、すべての年齢のメンバーやさまざまな病気の方がおります。

私たちは互いに支え合い、いかなる情報も交換し合うことを望みます。

私たちの中に詩をかく人や、記事を書く人、さらには俳句を書く人までいます。

彼女は本まで出したのですよ。

メリー クリスマス

そしてハッピーデイズ ニューイヤー

パティ・トラッキー

Dear Keiko

Wishing you and the group a Merry Christmas and a prosperous New Year. Please inform your group that I have many members that are interested in corresponding. We have members of all ages from teenagers to seniors citizen and a variety of illness. We like to support each other and exchange any information we may have. We have member who write poetry, information articles and one even writes hiku (spelling?) she was published in a book.

Merry Christmas to you and happy days in the New Year

Patti Truckey  
Po Box 367  
Republic, MI  
49879

Keiko

Avery Happy  
Christmas.

Season's greetings  
and best wishes  
for the  
New Year.

マーガレット・ボウラー

お元気にお過ごしでしょうか。イギリスに参りまして早や八ヶ月が過ぎました。よく言われることですが、日本を離れてみますと本当に日本の良さや悪さが、はっきり見えて来てなかなか興味深い毎日です。近々、読売新聞に私のAIDSリポートのエッセイが、掲載されることになりそうです。どうぞ よいお年をお迎えくださいませ。皆様にも よろしく。

あいか 彩子

Osaka, 01.11.93

親愛なる慶子さんへ

お手紙ありがとうございました。あなたの日常生活のいくつかを、とても興味深く読ませていただきました。たとえば日本の庭園のことなど。私たちの国ドイツでも日本の芸術を高く評価しています。ドイツでは、公園などで、スペシャルショウがあり「イケバナ」を習うことができます。(この言葉を理解し下さればいいのですが、ドイツでは花を生けることを特別の日本人的な方法で呼んでいます。) 個人の庭では日本的な庭園をめぐって見ることはできません。

さて、あなたの質問ですが：1985年、飛行機でたった一度、イングランドとスコットランドへ行った時以外は私も海外へ行ったことはありません。それ以外では、大陸の中でドイツに近い国々へは行きました。たとえば、フランスやイタリア、オーストリア、スイス、オランダなどです。けれども私はドイツ国内を旅するのが好きです。それは大へん興味深いことです。なぜなら、私たちの国は、1989年までふたつの国、即ち資本主義の西ドイツと共産主義の東ドイツとに分けられていたからです。以前の東ドイツの文化と生活様式は私たちの方式とは全く違います。それで私たち自身の中で多くの新しいことを学ぶことができます。私の障害のため最初の時点で見ることができなかつたし、又、他の人々の偏見に合うこともありませんでした。

ドイツはいま秋です。気候は寒く、雨と霧が多く、木々は葉を落しています。今日、私たちクリスチャンにとって、死者を思い出す特別の日です。(あなた方のお盆と同じような日だと思います。) 私たちはお墓を花とろ

Dear Keiko,

thank you very much for your last letter. It's very interesting for me to hear something about your daily life, for instance about Japanese gardens. In Germany we also esteem this Japanese art. In Germany we have special shows in our parks and we can learn "ikebana" (I hope you know this word: so we call in Germany the special Japanese way to arrange flowers). In private gardens you don't find Japanese gardens very often.

Now to your questions: I haven't ever go to overseas, too. The only time I travelled by aeroplane was 1985, when I visited England and Scotland. The other time I've gone to the states near Germany on the continent, for instance France, Italy, Austria, Suisse, Netherlands and so on. But I also like to travel in Germany. It's very interesting, because our state has been divided in two parts till 1989: in a capitalistic West-part and a communistic East-part. The culture and life-style in the former East-part differs totally from our way, so I can learn many new things in my own state, too. Because my handicaps can't be seen at the first sight, I haven't to suffer from other peoples' prejudice.

In Germany there is autumn. The weather is cold and we have much rain and fog. The trees loose their leaves. Today we have a special day for Christians to remember our dead relatives. (It's similar to your "Obon", I think.) We decorate the graves with flowers and candles. It's a day free of work.

In the next week I go to a psychological seminar in Bonn for 4 days. So I try to use the time without job for further development with the hope to get a better position in the struggle for jobs. In Germany all larger institutions must give 5 % of their jobs for handicapped people or they must pay a tax. Many institutions prefer to pay the tax and so the joblessness by handicapped persons is especially high. You see, also in Germany there are many prejudices.

In our shops you find already preparations for Christmas and our group will also arrange a Christmas celebration. Do you celebrate Christmas, too? And how do you do it? I am very curious to your next letter.

With the best wishes

Brigitte

うそくで飾ります。その日は仕事から開放されます。来週、私は4日間ボンで心理学のセミナーに行きます。仕事のために闘って、より良い位置を得ることを期待しながらも、もっと先の発展のために仕事を持たずに時間を使おうと思っています。ドイツではすべての大きな組織は、障害者のために彼らの仕事の6%を与えなければなりません。それとも税金を払うかしなければならぬのです。障害者にとって失業率が特に高いのです。わかるでしょ、ドイツでも多くの偏見があるのですよ。

もうそろそろクリスマスの用意をしているお店を見ることができますし、私たちのグループでもクリスマスのお祝いの準備をするつもりです。あなた方もクリスマスをお祝いされますか。あなたの次のお手紙に大へん興味をもっております。

ご多幸をお祈りしています。

ブリギッテ

親愛なる慶子さんへ

お手紙とクリスマスカードをありがとうございます。  
ございます。

私は日本とドイツのクリスマスの祝い方にほんの少しの違いしかないことに大変驚いております。

12月6日に、私たちはサンタクロース(あなたがごらんになった手紙に挿入したカードの)を祝います。この日は子供は飴などを貰います。サンタクロースは子供がそのために用意したブーツに贈り物を入れます。

12月24日に、私たちはクリスマスイブを祝います。この日は私たちはろうそくや飴、その他特別な装飾品でファイアツリーを飾ります。家族の全員が集まり、お互いにプレゼントを交換し合います。私自身の家族はたいへん少ないのです。私の母は7年前に亡くなり、私の兄(弟?)は来ることができません。(彼は自分の家族を持っています。)そのために私は父だけで祝うでしょう。私たちは教会のクリスマスのミサに行く予定です。

それから2日間、自由な日が続きます。12月の25日と26日です。これら2日間の特別な予定はありません。他の親戚を訪ねてもよいし、クリスマスコンサートや、クリスマス前の日々からリラックスすることもできます。ドイツではすでに9月からお店にクリスマスのギフト商品が見られます。クリスマスはただひとつのたいへん大きなビジネスだとも思います。

12月31日に私たちは花火大会と共に終わるパーティーで大みそかを祝います。これは過ぎ去っていく年の悪霊を追い払う

古くからの習慣です。信仰深い人は幸せな新年を神に祈ります。

1月1日はまた自由な日です。私たちは特別なケーキを食べます。それからいつものふつうの日々が始まり、大みそかにした多くの目的と計画はしばしば忘れてしまうことでしょう。

でも、私は(あなたの目的が)実現することを望んでいます。そして、あなたのご家族とあなたのグループにすばらしいクリスマスと良き新年の始まりをお祈りします。  
あなたの次のお手紙まで。

ブリギッテ

Unna, 18.12.93

Dear Keiko,

Thank you very much for your last letter and your Christmas card.

I am very surprised that there is only little difference in celebrating Christmas in Japan and in Germany:

At 6th December we celebrate Santa Claus (You see him at the card, I will put to this letter.) At this day children get some sweets. Santa Claus puts his gifts in boots which the children prepare for this act.

At 24th December we celebrate Christmas Eve. At this day we decorate a fir tree with candles, sweets and other special ornaments. All member of the family come together and they make presents to each other. My own family is very little: My mother is dead since 7 years, my brother couldn't come (he has an own family), so that I will celebrate only with my father. We plan to go to a special ceremony in church.

Then two free days follow: the 25th and 26th December. There is no special programm for these two days. You can visit some other relatives, go to a Christmas concert or you can relax from the days before Christmas. In Germany you find Christmas gifts in our shops already in September and so sometimes I think Christmas is only a very big business.

At 31th December we celebrate the New Year's Eve with a party which ends with fireworks. This is an old tradition to banish the ghosts of the old year and also a very big business. Religious people go to church to beg God for a lucky new year. The 1st January is also still a free day. We eat special cakes. Then the normal routine of every day begins and very often many intentions and plans making on New year's Eve will be forgotten.

But I hope your wishes will become reality in 1994. Besides I wish you, your family and your group a wonderful Christmas and a good beginning of the new year.

Til your next letter

*Brigitte*

12



はあとが、はろー！

海外からのお便り

富田 慶子

あけまして おめとうございます。

旧年中は、多くのご厚情とご協力を賜りまして、ありがとうございます。

本年も、よろしくお願い申し上げます。

また、皆様から多くの年賀状をいただきました。ありがとうございます。

そして、昨年暮れには、海外からのクリスマスカードも幾通か送られてまいりました。

本号でもクリスマスカードの頁が設けら

れています。今回はこのカードの方々のことを少しお話させていただきます。

初めて海外から入サロン・あべのVに便りが届きましたのは、一九八八年三月、ヨーロッパ旅行をされていた岡氏(元あべのボランティア・ビューローのコーディネーター)からのものでした。出発前、「ヨーロッパの国でサロンのような活動をしているグループがあるか捜してみる。」と言って下さっていたのです。

届いたおたよりは、「姉妹都市ならぬ姉妹グループを作れたら...」と思っていました。が、訪問したところでは、そういうグループはなく...という内容で、「London by Night」というタイトルの付いた真っ暗な絵ハガキでした。

その後も、各グループとの出会いについてのお便りをいただきましたが、それらのグループからサロンへお便りがあるかどうか判らないということでした。

この様なお便りを受け取っていたものから、期待を持たずにいましたところ、それから二週間ほどして西ドイツのブリギッテ・オーレンベルグさんから初めてのお

便りが届きました。ブリギッテさんは、独身の二十歳代の娘さんで、脳卒中患者の自助グループのメンバーでした。右半身マヒになり、書き方を習得し直したので、読みとってもらえるかどうか心配...と英語でかかれていました。

英語の苦手な私は、早速石田編集長に英訳をお願いしましたところ、奥様が下さるとのこと。それ以後いまに至るまで、海外からの来信の和訳。私から相手方への返事の英訳。共にお願いしています。

次に届きましたお便りは、イギリスのマーガレット・ボウラーさんから可愛い小鳥の絵ハガキでした。

マーガレットさんは、筋ジスグループのお手伝いや色々なボランティア活動をされている中年のご婦人でした。このお二人の方に加えて、一昨年の暮れにはアメリカのパーティ・トラッキーさんから、お便りが届きました。やはり岡氏がサロンを紹介下さったのです。

パーティさんは、三三才の重度障害者ですが、積極的な生活をされており、ペンパルを望んでいます。



今年こそ新しいチャレンジをと考えておられる方がありましたら、ぜひペンパルになってあげてください。

この他にも海外からのお便りはちよくち



■ □ ■  
サロン紙からの発見と勉強

今年も早二週間余りとなって参りました。この一年がとて早く過ぎて行くように思われます。

お寒い折柄、その後如何お過ごしでいらせられますか？ 毎月〃サロン・あべの〃ご送付いただきありがとうございます。一度例会にお邪魔させていただけたら…



よく届いています。それは、心やさしく楽しいお便りです。旅行や勉強に行かれた方がサロンへ送って下さるのです。

私にとってエアーメールなんて縁もゆか

と思いつ、土曜とてなかなか時間の都合がつかませず参加出来ません。

十二月の出会い『サロンのクリスマス、きつと、え、ことありますよ』ではさぞ楽しく又新しいお友達が大量参加され、素晴らしい思い出をつくられた事でしょう。

〃サロン・あべの〃紙も号を重ねる度毎に増々充実した内容となり、私達も思わぬ発見・勉強をさせていただいております。これからもよろしく願います。

■ □ ■  
うらやましく頼もしいサロン

山田 絹代

いつも「サロン・あべの」お送り下さりありがとうございます。

皆様の「活躍うらやましく、又頼もしく拝見しています。

りもないものと思っておりましたが、ハサロン・あべのVのおかげで、世界地図にも親しみがもてるようになり、思いもかけない楽しみとなっています。

ぜひ一度、サロンへ伺いたいのですが、何分にも人前で話すのが不得手な私。ついにしりごみしてしまいます。

でも、そのうち一度参加させてください。

■ □ ■  
サロンのスタッフはすごい

森 芳江

毎月、手にするたびに〃サロン・あべの〃のスタッフの方達って、すごいなあーと思います。私なんか年に一、二回の行事をするだけで「いやあー大変や」と思いますが、毎月この様に充実した内容を企画されておられるのには、本当に敬服します。一〇〇号に向けて、ますます燃えておられるであろう皆様にエールをおくりします。

「高齢者と在宅介護」はお休みます。

新しい年を迎えて

子どものころの私の家は、高校のすぐそばにあった。夕方が近づくと、きまって、おえい、おえい、という低い叫び声が聞こえていたが、それは野球部の高校生たちの声であった。いったいあの動物のような、実際、田んぼの中の蛙（かえる）を思わせる声を、誰が何のために出しているのか、小さいころの私にはまったくわからなかった。

母が、帰ってきなさいと私を呼ぶころになれば、高校からチャイムが聞こえ、門からは黒いような青いような同じ服をきた背の高い男の人たちと女の人たちが、いつせいで出てくる。彼らは、いつも大きな声で笑ったり話したりしていた。私が遊んでいてゴムボ-



ルを川に落してしまったりするときなどは、長い腕で取ってくれたり、川面の近くにある石まで、ひよいと長い足で飛び降りて、にっこりと笑って手わたしてくれたものだ。

父や母と同じくらいに背は高かったが、私と同じような子どもを連れて歩いていることはなかった。高校生の年ほどのひとが身ぢかにいなかったこともあって、紺色の制服をきた学生たちは、私にとってほんとうに神秘的な存在だった。いちばん想像できなかったのは、あの背の高い人たちが、いったい何を考えているかということだった。

幼い私の毎日は、仲間といっしょに青くて堅い石を隠したり、道ばたに捨てられていたザニガニを川に逃し、いつかザニガニの神さまが誉めてくれるにちがいないと期待したり、「忍者」になるための「修行」を明日からやってみようと刀がわりの枯れた雑草の硬い茎を探したりという繰返しであった。じっさいに自分が高校生になつてみると、考えていることといえば、隠し

ていた「青くて堅い石」がクラスメートの女子学生になり、ザニガニが学校の成績になったにすぎなかった。なんだ、高校生なんてたいしたことないなと、私は、一人で笑ったことがある。

大学生になると、やはり同じように三〇代、四〇代の人たちをみて、いったい何を考えているんだろうと思った。何を考えているのかというのは、もはや疑問ではなく、どうしてそんな平凡なつまらない毎日の繰返しに我慢しているのかという非難めいたものだった。そばにいる中年の人たちといえば大学の教員しかいなかったから「先生は、いま幸せですか」と、出し抜けに聞いたこともあった。答えは「まあまあだね」というものだったが、そんな毎日と同じように暮らしていて、どうして「まあまあ」なんだと、情けないような気がしたものだ。

人生はおもしろいもので私自身が、その年頃になってみると、同じような質問、というより非難めいたものを若い学生たちから受けることがある。「先生を見てみるとイライラしてくるんですよ」という調子である。「どうして？」と聞きかえすと「なぜ、もっと必死にならないんですか」と言う。

「ぼくなりにせいっぱいやってるよ」  
「いや、そうは思えない」という回答が続く。

はたして、私は若さを失ったのだろうか。それとも学生たちにはわからないことを、私がわかるようになったということなのか。

ひとつ言えることは、若い人たちは無限の可能性をもっているからこそ、その可能性の重圧に苦しんでいるのである。彼らには自分を十分に伸ばすだけの時間と若さがある。だからこそ、その方向性も基盤も見つけられないでいるとき、一日一日、生きていくこと

時々こんな質問を受けた。  
「日本の女性は結婚するとどうして働かないのか？」  
保育制度がしっかりしていて、働くのが当たり前の中国では、専業主婦と言うのは理解しにくいらしい。  
互相学習 (フーシヤンシュエミー) をしていた張さんは西安の人、李さんは武漢の人、いずれも五才の子供のお母さん。半年

中村 美根子



## 我在大連住了四个多月

大連に四ヶ月余り住んで

## 連載第六回

は、それだけその無限の可能性を失って行くように思えるのだろう。外は大雨が降っているのに、両手で受けることができず、雨はほんのわずかで、しかも指の間から見ている間に水は地に落ちてしまう、そんな焦りにみちた時間を、若い彼らは耐えている。

私はといえば、いまでは、自分には何ができて、何ができないのか、それほど大きくもなく小さくもなく、ちょうど自分と同じくらいの大きさの仕事の全体がおおよそ見えている。私の迷いは、もはやどこに進むのかという迷いではなく、できることのいくつかが

間家族をおいて大連で日本語を勉強し、今年の十月張さんは京都大学へ、李さんは大阪大学に自分の専門研究のため一年間留学します。  
その間、子供は国やおじいちゃん、おばあちゃんが面倒を見るらしい。  
もし日本のお母さんが五才の子供をおいて自分の勉強のため一人一年間も外国に行くとしたら・・・?

ら、何を先にして、何を後にするかということにすぎない。できないことをできないと嘆くのではなく、できることのうち休んでいてしなかつたことを思い出すだけなのである。

「できる程度のことをすればそれでよい」という、ロマン・ロランの小説の一節を読んで、ほんとうに涙を流した若い時代があった。あのころ、それほど生きること焦っていた私も、新しい年を落ち着いた心もちで迎えている。  
(知)

初級二班の我がクラスにはこんな人達がいました。

真面目で勤勉で可愛い北朝鮮からの留学生(十七才くらい、ホテル住まいで授業だけ受けに来ている)、お互い初心者だからカタコトの中国語で意味の取り違いもありますが彼女が話す事はともかく国の事、四月十五日がこの国の主席の生日 (誕生日) その祝い会にどこかの会場に大勢の

.....  
わだち10周年の集い  
.....

障害者の自立を求めて「わだち」作業所が八尾の地に誕生して10年、この歩みを振り返るのではなく、次の10年のための第一歩として下記の企画をたてました。

ご参加をお待ちしています。

-----  
ゲスト：スペシャルゲスト

劇団「**寛長変**」

日時：2月4日PM6：30～  
(開場 PM6：00)

場所：八尾プリズムホール・  
小ホール

参加費：一般・前売り¥1800.

当日¥2000.

障害者と介護者ペア

前売り¥2700.

当日¥3000.

中学生以下・

前売り¥ 900.

当日¥1000.

問い合わせ先

八尾市福万寺町南1-54

TEL. 0729-99-5063

\*車イスで来られる方は前日まで、お電話下さい。

後援：八尾市

八尾市教育委員会

八尾市社会福祉協議会

人が集まる、もちろん彼女の学校も全員出席とか・・・作文をすればー私は祖国を愛しますー。それと対照的な韓国の子はまあオキャン、そして韓国人同志は本当に仲がいい、日本人には考えられないくらい(ちなみに中国の世界地図は朝鮮は一つ)。四七才ぐらいの日本人女性はその子供が大学生になったのでやっと肩の荷が降りた、これからは私の人生と三人の子供をおいて一年間の勉強にきている。六十才ぐらいの女性には学校の先生、定年退職を機会に初孫も出来たことだしとご主人をおいて勉強に来ている。二人ともそれは熱心だった。中に

はノーテンキな若者もいたけど習慣の違う国で、一生懸命生きている、若い時にこんな経験が出来てうらやましい・・・。世界は本当に広い！いろいろな人がいるもんだ・・・。戦争の事も話したことがあった。互相学習をしていた二一才の徐さん(瀋陽出身)と二三才の朴さん(青島出身)。私が戦争の事を少しは知っていたので、ビックリしていた。二人共、学校でちゃんと学んだそうだ。私は学校では学ばなかった、兵庫県青年洋上大学(第三回)に参加した後で知った事だ(国交回復の次の年に中国へ行っ

たから)。  
戦後四八年の歳月が過ぎていった。  
戦後生まれの我々だけど、戦争についてはチャントした知識を持っていなければと言う事を改めて認識した。  
短い間でしたが住んで見て、初めて解るガ・イ・コ・クを経験できた。  
もう一度、あの汚い雑踏の中に帰りたいと思う今日このごろであります。  
(おわり)

デジャ・ビュ?

初春のお慶びを申し上げます。

お正月はどのように過ごされましたか? 私は住吉区にある吾彦観音と大依

● 河合恵子

作る

つくる

創る

7

羅(よさみ)神社に初詣。いずれも古事記・日本書紀にその名前があるという古い神社です。大依羅神社のお守り「よせあみさん」は細長い棒に朱色の小さな網が付いています。「よさみ」というのは依網、網を寄せるというから転じて財宝を寄せるという。このお守りを手に桜並木の続く参道の南、大和川の堤を眺めていると眼前に入江が広がり、浜に連なる松林の木々の梢を

風がさらさらと揺らしていく往時の様子が浮かんでくるように思えます。

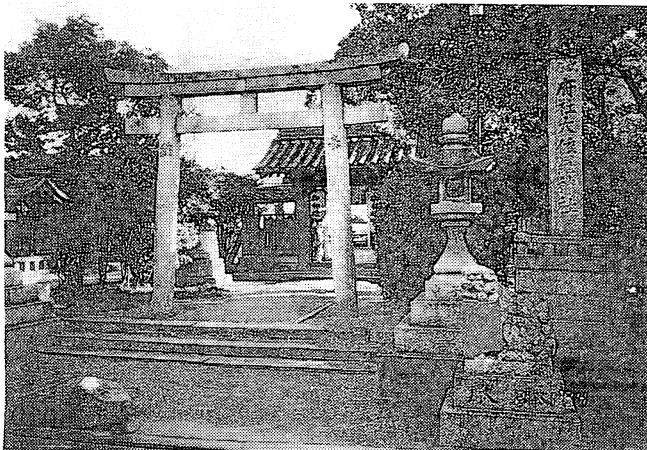
ところで先日、「未知の記憶」(中川勝彦著)という絵本とカセットテープが届きました。内容はアフリカのサバンナを舞台に若い駝鳥が、生まれた土地から海をめざして旅する。その間に会える様々な動物たちとの語らい。

「心の中って、感じるもの全てが、存在する世界なんじゃないかな」と思う作者の心象風景を絵と自らの朗読・音楽を通して誰でも楽しめるように作られている。「たいせつなものは目には見えない」というのはたしか「星の王子さま」の言葉。自然や音楽・美術をはじめ、色々なものに触れたとき、見るひと、聞くひとの心のなかに何かが生まれることがある。何かを感じる。こころはいとおしいもの。

この本は予定ではもっと早く出来上がるはずだったのですが、一年半以上遅れました。完成を目前に作者が突然

入院を余儀なくされたためです。病名は急性骨髄性白血病。幸い投薬で一命をとりとめ、退院したものの医師は骨髄移植を勧めているといいます。

財宝より健康を、長寿を寄せる網があれば・・・と思います。



おもろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

### マスメディアの威力

先日、ある事情でこんごう寮の陶芸作業班・つくし組の仕事風景を撮影に、テレビ局の人がカメラをひっさげやって来られました。

カメラなんか何のその「××ちゃんが、私の物を盗ったー」と泣く人もいましたが、その日の発見はお喋りのNさん。

いつもは、時間いっぱい喋る、喋る。お喋りをやめたら息もとまるのではないかとの噂もあるNさんが、テレビカメラが自分を写していると感じた途端、ピタッとお喋りがとまったのです。

職員が前でいらんでもダメだった

のに、口をつぐみ、ひたすら指を動かして作業に励むNさんに、マスメディアの威力に関心しました。

ただ、カメラが横を向くと同時に喋り出したことは付け加えておきます。



えーバカバカしいお笑いを一席

おもろい姉ちゃん テレビに出演

私の趣味でやっている落語のサークルが、テレビで取り上げられることとなり、職場の撮影も、ということになったのです。

一月八日の寄席での風景も撮影して、二月二六日(土)朝七時〜七時三〇分毎日放送の「現代を生きる」という番組で放映される予定です。

寮生さんのかわいらしさのようなものが写ってあればよいのにと、思っているのですが……

メンバーが七人、三〇分という番組で私がどれだけ放送してもらえるかわかりませんが、よかったらご覧下さい。

もうすぐ、私のワンルームマンションでの練習風景も撮影されます。



# 美智子のこんな話



岸田 美智子

公営住宅に独身の重度障害者が入れるようになつたけれど

地域で障害者が自立生活をはじめるときに、大きな問題として住宅の問題があります。この問題に風穴をあけるような新聞記事が掲載されました。その記事を左記に要約してみましたので、みなさん読んで下さい。

この記事を読むかぎりでは、どんな重度障害者でも入居できるかどうか、という問題が残ります。

実際に入所できるかどうかの判断は、住宅管理課にまかされるといふことで、「二四時間介護が必要とか、寝たきりの場合は難しいのでは…」と言っているそうです。

だからまだまだ、どんな重度障害者も入れる、とはいかないようです。

これをきっかけに、私たちがどんどん入居の申し込みをしていきましょう。

兵庫県西宮市は市営住宅への入居資格を見直し、一人暮らしの重度障害者も受け入れることを決めた。

従来は家族らと同居する場合に限られていたが、今後は民間ボランティアなどの介護が見込めれば、単身でも入居できる。

単身の重度障害者用住宅は、木造平屋建て(2K)の住宅を車いすが使えるように玄関の段差を取り除き、トイレなどを改造する。当面入居できるのは一戸だけだが、木造住宅に空き室が出るたびに、単身の重度障害者用として確保数を増やしていく。(93.11.22.朝日新聞より抜粋)



## お知らせ

二月の出会い

日時 二月十九日(土) 午後一時〜四時

内容 「色の不思議な世界のお話」

―色で知るあなた自身―

パネラー

シーズンカラーアナリスト 福永享子氏

場所 育徳コミュニティセンター研修室

〔阿倍野区阪南町五一―一五―二八  
車椅子トイレ・スロープあり〕

会費 なし

申し込み・問い合わせ先

☎〇六―六九一―一〇二八(富田慶子)

〇〇サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました〇〇

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙九〇号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、九〇号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

サロン紙朗読テープをご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。(☎〇六―六九一―一〇二八)



メダル獲得 おめでとう!

スキーやエアロビクスをしているスポーツウーマンとして知られている中西利香さんが、昨年の十一月に徳島県鳴門市で開催された第二九回全国身体障害者スポーツ大会「躍動のうずしお大会」において、水泳(二五m背泳ぎ)の部で金メダルを、そして、卓球の部では銀メダルを受賞されました。

日頃の練習の成果が、身体障害者の国体と言われているこの大会で、金と銀とのメダルとなって花開いたのでしよう。

これからは、オールシーズンのスポーツウーマンとして、大いに活躍が期待される事でしょう。

~~~~~  
話すことや聞くことに

障害をお持ちの方へ

このたびNTTでは、話すことや聞くことに障害を持っている人に対し、クレジット通話(NTTカードCでかける場合は、加入電話のダイヤル通話料で利用できる)の利用により、公衆電話料金改定の影響を少なくするためにクレジット通話の付加機能使用料が無料となります。

くわしくは左記に問い合わせて下さい。

○電話・専用フリーダイヤル

○一二〇〇一二二四四四

局番なし一一六

(九時～一七時 月～金)

○FAX・専用フリーダイヤル

○一二〇〇〇八八六七

(九時～一七時 月～金)

○営業窓口・営業時間九時～一六時

月～金(土・日・祝日は休み)

~~~~~  
# 感謝 します #

カンパ、切手、お茶菓子、手芸用品、

一九九四年度ダイアリー、冊子、メモ帳  
買い上げ等、ありがとうございます。

お礼を申し上げます。

十一月・十二月のカンパ金四五、〇〇〇円

石原 栄(大阪義肢装具センター)、

今西美奈子、大里哲子、大塚一枝、

岡 賀寿子、岡崎美智枝、小倉貫一、

小野原俊介、黒羽玲子、田淵美登利、

富田万里子、長島伊津子、平野祥子、

堀田さゆり、堀部俊二、森 芳江、

山田絹代、山本敏子、匿名五名。

(敬称略)

編集後記

本紙の大部分は、富田さんのワープロのお世話になっている。これが最近調子が悪く、あるときなどは校正も終わり、編集というときになってご機嫌を損ねられた。選りに選ってこんなときにとらんではみたが、どうしようもなく入稿日に間に合わせるのに、一行一行切り貼りしたこともあった。新しい年、新しいワープロに交換。(石)

編集人; サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.91[94. 1.22 発行] 定価¥100.  
代表; 上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303. 電話06-621-4365  
連絡先; 富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028  
表題; 斉藤孝文・筆  
印刷; セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL. 06-691-2365.